

市政に対する一般質問一覧表

平成30年第1回定例会

質問順位 1

議席番号 5番

氏名 遠藤 泰子

質問方式 一問一答 質問時間 10分

質問事件	質問の要旨
1. 行政問題	<p>1. 三沢市公共施設等総合管理計画について</p> <p>平成29年3月に三沢市公共施設等総合管理計画が策定されました。同計画では、平成29年度から平成58年度までの計画期間内における公共施設等の更新費用総額は、1,371億円と試算されており、30年間の維持更新費用を531億円削減することを目標としております。年平均で18億円の更新費用を削減していくために、施設の統廃合や集約化、効率的な維持管理などの施策を実施することとしておりますが、計画が策定されて1年が経過し、どのような取り組みがなされたのかお伺いします。</p> <p>①維持管理や修繕・更新等の具体的な実施計画の策定にかかる進捗状況について伺います。</p> <p>②長寿命化計画の策定にかかる進捗状況について伺います。</p> <p>③施設の統廃合について検討状況（結果）について伺います。</p> <p>④個別の施設計画を策定する予定とされているが、進捗状況について伺います。</p>

質問事件	質問の要旨
1. 空家等対策の推進について	<p>国土交通省は「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づく空家等対策計画について、法施行後2年半の昨年10月1日時点で全市区町村の25.7%となる447団体が策定し、今年度末には5割を超える見込であると発表しました。</p> <p>そこで、三沢市の空家等対策に係る取り組み状況及び計画の策定を含めた今後の対策の推進について伺います。</p>
2. 飼い主のいない猫対策の推進について	<p>市のホームページにおいて「猫の飼育の注意」について周知されていますが、内容は飼い猫に対する注意事項であります。反面、捨てられた猫は野良猫となり、全国の自治体で毎年約20万匹の猫が収容されており、その多くが殺処分されるとしています。</p> <p>そのような中、収容される猫の削減に向けた取り組みとして、地域住民、ボランティア、行政が一丸となり、人と動物の共生社会づくりを目指す地域猫活動が注目されています。</p> <p>そこで、不妊去勢手術に対する補助金の制度化も含めた飼い主のいない猫対策の推進について伺います。</p>
3. 高齢者ふれあい入浴事業の実施について	<p>現在、65歳以上の市民は無料で市民の森温泉浴場に入浴できます。そして、1年に7回程度は福祉バスの利用で入浴できますが、それを除き、交通手段がなく、行きたくても行けない高齢者の方々も多いのではないのでしょうか。</p> <p>温泉はコミュニケーションの場としても活用され、くつろぎや疲労回復、健康増進の効果も期待されることから、全国でも多くの実施例のある、高齢者に市内温泉施設の入浴料を助成する高齢者ふれあい入浴事業の実施について伺います。</p>
4. 中心市街地の活性化について	<p>平成19年11月～平成25年10月を計画期間とした中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関し平成26年5月に報告された内容は、「計画事業の推進により低迷していた中心市街地に回復の兆しが見えてきており、今後においては、これらの機運を的確にキャッチし、市民が誇りに思える中心市街地の形成を推進することが最優先であると考え、まちづくり団体や地域住民とともに当市の特色を活かした魅力ある事業を展開し、中心市街地の賑わい創出に係る施策を展開していく」としていましたが、現在の中心市街地活性化の状況とその評価及び今後の取り組みについて伺います。</p>

質問事件	質問の要旨
<p>1. 「ホストタウン」と「共生社会ホストタウン」について</p> <p>2. 児童への安全教育について</p>	<p>世界各国、並びに、私たちに感動と勇気と希望を与えてくれた韓国平昌オリンピックが終わり、これから障がい者スポーツの祭典であるパラリンピックが、今まに行われようとしております。この世界中のトップアスリートから学ぶ事は多くあることであると感じています。三沢市が2020年東京五輪・パラリンピックに向け、合宿の誘致を起点に「心のバリアフリー」等の事業を始めとして、共生社会実現に向けた取組みを推進しているところであります。また、昨年12月11日に登録が決まった、「ホストタウン」「共生社会ホストタウン」であるが、各種事業についてどのように取組むのか三点伺います。</p> <p>①どのような取組みを実施するのか伺います。</p> <p>②この取組みによってどのような効果を期待されるのかを伺います。</p> <p>③2020年東京五輪終了後以降への成果はあるのか伺います。</p> <p>私たちは常に安全意識を高く持ち、安全に対して前向きに対応をしていると思います。特に、私たち大人が守らなくてはいけない子供たちに対して、敏感に対応すべく訓練や教育を通じて事故等の予防に努めていると考えます。</p> <p>また、教育現場、家庭等で大人がいる環境内では大人や親の指示に従い安全誘導の行動がとれる状況にあると思いますが、子供だけで行動することを考えると交通事故、自然災害、有事に起こりえる様々な状況は、やはり子供自身が安全に対しての知識を持ち少しでも、自分自身で自らを守る知識を持たせることが必要であると感じます。</p> <p>そこで、2点伺います。</p> <p>①安全教育についてどのような教育が行われているか伺います。</p> <p>②安全教育についてどのようなペースで行われているか伺います。</p>

